

## 第107回 病態生化学セミナー

日時：平成28年12月16日（金曜日）午後6時00分～

場所：医学部 図書館3階 視聴覚室

演題：哺乳類の発生のエピジェネティック制御

Epigenetic regulation of mammalian development

演者：佐々木 裕之 先生

九州大学生体防御医学研究所 ゲノム機能制御学部門 エピゲノム制御学分野  
教授

哺乳類のエピジェネティクスの典型例として、胎児の発生・成長や胎盤の形成に重要な働きをするゲノムインプリンティング現象がある。インプリンティングは雌雄の配偶子形成過程で生じる遺伝子マーキング現象で、これにより生じた修飾（DNAメチル化）の違いが両親由来ゲノムの発現の差として胚において表現される。インプリンティングを受ける遺伝子には、IGF2をはじめとする胎児の成長因子や、胎盤形成、代謝調節、母性行動等に関わる遺伝子等があり、それらの遺伝子の変異や修飾の異常は婦人科・小児科領域の様々な疾患と関わる。我々は長年このインプリンティング現象をモデルとして生殖細胞のエピジェネティクス機構を研究してきた。本大学院セミナーでは、哺乳類の発生のエピジェネティクス制御に関する最近の研究成果を紹介する。

【佐々木 裕之】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp